

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	保育内容指導法（人間関係）						授業形態	演習	
科目コード	750073	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	神垣 彬子								
授業概要	<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された幼児教育の本質を踏まえ、領域「人間関係」における“ねらい”を明らかにすることを目的とする。</p> <p>その上で、幼児が身につけることが望まれる”内容”をおさえながら、当領域における乳幼児の発達を関連づけ学習する。さらに、幼児にとって“人とのかかわりをもつ力”がより育つための支援や言葉かけについて具体例を通して演習し、学びを深める。</p> <p>保育現場での実務経験を有する教員が実際の事例検討等を交えた授業を行う。</p>								
関連する科目									
授業の進め方 と方法	講義は、パワーポイントや講義内容に沿った視聴覚教材を用いて行う場合がある。講義内容によっては、ディスカッションやロールプレイを用いて学びを深める場合がある。								
授業計画 【第1回】	1 子どもの「人間関係」と現代社会 現代の子どもを取り巻く社会的環境と、それに付随して見られる人と人とのかかわり方の特徴について知り、問題を見出す。								
授業計画 【第2回】	2 心と身体の発達 人と人との関係を結ぶための基礎となる、子どもの心身の発達や成長について理解する。								
授業計画 【第3回】	3 情動とは何か 人と人との関係を結ぶための基礎となる、子どもの心身の発達や成長について理解する。								
授業計画 【第4回】	4 人と人との結びつき 人と人との関係を結ぶための基礎となる、子どもの心身の発達や成長について理解する。								
授業計画 【第5回】	5 なぜ「人間関係」の領域を勉強するのか-現代社会と子どもの「人間関係」 保育において子どもの人間関係に焦点を当てることの意義と目的を理解する。								
授業計画 【第6回】	6 なぜ「人間関係」の領域を勉強するのか-領域「人間関係」の考え方 保育において子どもの人間関係に焦点を当てることの意義と目的を理解する。								
授業計画 【第7回】	7 領域「人間関係」-「人間関係」の歴史と変遷 保育内容指導法として人間関係がピックアップされた背景を知り、現代の保育者に求められている保育的、あるいは教育的視点を理解する。								
授業計画 【第8回】	8 領域「人間関係」-「人間関係」の新しい展開 保育内容指導法として人間関係がピックアップされた背景を知り、現代の保育者に求められている保育的、あるいは教育的視点を理解する。								
授業計画 【第9回】	9 領域「人間関係」-「人間関係」の新しい視点 保育内容指導法として人間関係がピックアップされた背景を知り、現代の保育者に求められている保育的、あるいは教育的視点を理解する。								
授業計画 【第10回】	10 「人間関係」の発達とその問題 子どもが人と関係を結んでいく過程を理解し、どのような問題が生じるのか、保育者がどのようにかかわることで問題を解決するのかについて理解する。								
授業計画 【第11回】	11 遊びの中で育つ「人間関係」 子どもが人と関係を結んでいく過程を理解し、どのような問題が生じるのか、保育者がどのようにかかわることで問題を解決するのかについて理解する。								

授業計画【第12回】	12 保育者と子どもの「人間関係」 子どもが人と関係を結んでいく過程を理解し、どのような問題が生じるのか、保育者がどのようにかかわることで問題を解決するのかについて理解する。
授業計画【第13回】	13 「人間関係」でちょっと気になる子ども 子どもが人と関係を結んでいく過程を理解し、どのような問題が生じるのか、保育者がどのようにかかわることで問題を解決するのかについて理解する。
授業計画【第14回】	14 様々な「人間関係」から見る保育者の役割 子どもと子どもの間の関係だけでなく、子どもと保護者、保護者と保育者、保育者と保育者など、保育における様々な人間関係について学ぶ。
授業計画【第15回】	15 特別な支援が必要な子どもと「人間関係」 特別な支援が必要な子どもと周囲の子どもたちと関係を結ぶことができるようにするために、保育者としてどのような知識や支援スキル、配慮が必要であるかを理解する。
授業の到達目標	子どもが人に対する信頼感をもち、ともに支え合って生活することができるための指導のあり方について理解することができ、その内容を自分の言葉で表現したり実践のための計画を立てることができるようになる。【職業知識・技能の育成】
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学修【予習】	授業の前後にノートの予習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。 次回の講義の予習箇所については、講義終了前に毎回提示する。
授業時間外の学修【復習】	授業の前後にノートの復習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。 当日の講義の復習箇所については、講義終了前に毎回提示する。
課題に対するフィードバック	最終試験の採点基準および回答のポイントについては、授業内容の振り返りとともに最終講義内で事前に解説する。
評価方法・基準	定期試験（基礎用語の理解と指定評価方法テーマに対する論述問題）100点の結果で評価する。
テキスト	<領域>人間関係ワークブック 田村美由紀・室井佑美 著 萌文書林 2017
参考書	適宜紹介する
備考	